特

感染対策チー CTの活動

再度増えることが予想されます。 ここ3年ほどは激減していましたが、コロナ禍前の生活が戻ってきたことで、 どがあります。新型コロナウイルスの流行による外出の自粛やマスクの着用で 冬に多くなる感染症に、インフルエンザやノロウイルスによる感染性腸炎な

フ ル エ つ しょ T

それらの人と同居している方などはワクチ ます。高齢の方や持病がある方、もしくは 重症化を予防する効果は高いと言われてい 全には防げませんが、ある程度は予防でき、 ご注意ください。 が下がるまでは数日かかることもあるので 症の防止が期待できます。 薬することで症状が出る期間の短縮と合併 フルなどがあり、発症から48時間以内に服 消毒も感染予防に有効です。 膜から感染することがあるので、手洗いや ウイルスがドアノブ、ボタンなどの表面に 感染させるリスクを下げられます。 特に咳がある人はマスクをすると、 咳や会話などで出た飛沫で感染するので、 それに触れた手を介して目鼻口の粘 ワクチン接種は感染を完 服用してから熱 治療薬はタミ

インフルエンザの感染経路と予防

防 子 感染経路 感染者の咳などから空気中に出たウイ マスク ルスが直接、目・鼻・口の粘膜に付い (感染者がつけた方が効果的) て感染する 感染者の咳などから空気中に出たウイ 顔を触らない、手洗い、アル ルスが直接、目・鼻・口の粘膜に付い コール消毒

て感染する

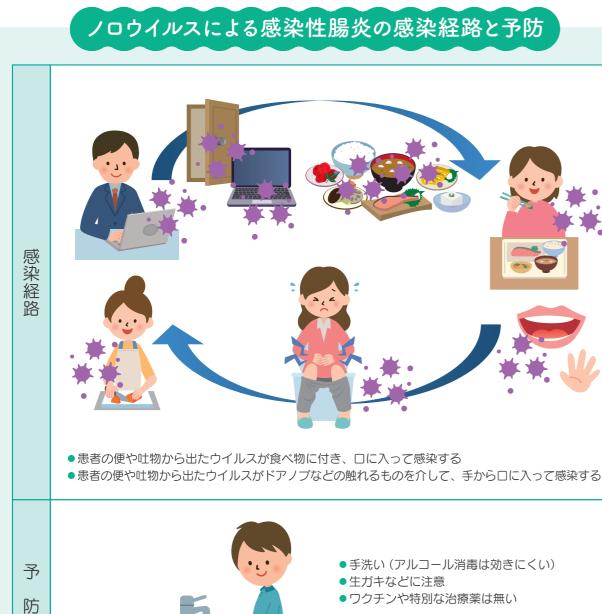
ル スによる 感染性腸 炎

ゥ

いため、 歳未満、 します。 り洗い流すことが重要です。 場合には点滴で水分補給を行うことがあり す。特別な治療薬は無く、 または臓器移植後の方以外は保険適応が無 による窒息にも注意が必要です。 痢や発熱が出現し、 の量で感染します。 しい吐き気と嘔吐が数時間続き、その後下 冬場に流行し、生ガキからの食中毒でも ル消毒が効きにくいので、 食べ物や手から口に入ることで感染 通常の診断は症状や病歴で行いま 65歳以上、 高齢者や乳幼児は、 一番の予防は手洗いです。 2~3日で徐々に改善 癌や免疫不全がある、 脱水症状がある 針の先に乗る程 脱水症や吐物 まず突然の激 水でしっか 検査は3

国立感染症研究所

「感染症発生動向調査週報」



感染対策チーム ICT" 活動中の様子









院内ラウンド



職員に対する指導



感染対策委員会



職員へのワクチン接種



感染対策講演会

Check!

患者さん・ご家族にお願いしたいこと

【入院について】

病状によっては個室入院をお願いしています。 ご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。

【面会について】

感染症の流行状況に応じて制限させていただく 場合があります。現在の状況については、 当院HPをご参考ください。

「ご来院の方へ」





総合診療科 感染制御医師

岡部 太郎

おかべ・たろう

アルコール消毒や手洗い、マスクの着用など、 感染対策は面倒と思われがちなうえに、菌やウ イルスなどは目に見えず、実感もわきにくいと 思います。感染対策チームでは、どのような感 染対策が最終的に患者さんの利益になるかを 考え活動していきたいと考えておりますので、 ご協力の程どうぞよろしくお願いいたします。



を行っています。 どをチェックし、 必要に応じて指導・介入など

感染対策チ

他の医療機関との定期的な情報交換、 向けの定期的な教育講演会、 理などが適切にできているかのチェック、 新、医療機器の洗浄や消毒・ ベイランス※への参加など、 症の動向を調査すること。**感染症の発生状況や変化を継続的に監視することで感染 その他、院内感染対策マニュアルの作成・更 活動内容は多岐に 感染性廃棄物の処 職員の健康管理、 全国サー 職員

技師からなる、 Team) とは、

組織横断的に感染制御活動をす

感染対策チ

С

(Infection Control

とは?

医師、

看護師、薬剤師及び検査

当院のICTメンバ

ーはそれぞれ感染制御医

感染制御専門薬剤師、

ムです。

感染管理認定看護師、

染症に関わ そ の 他 の院 チ

職員を守る活動をしています。

んな活動をし

T しょ

る

の

様々な感染症の診療にあたって

多剤耐性菌など、様々な病原体から患者さんや 活かして新型コロナウイルス、インフルエンザ、 た専門資格を有しており、

それぞれの専門性を

感染制御専門認定臨床微生物検査技師、

療期間の設定や検査を医師に提案させていただ 生物質)が適切に使用されるように監視・支援 Stewardship Team) があります。抗菌薬 (抗 適正使用支援チームAST(Antimicrobial くなど、治療に密接に関わる活動が中心です。 などを行っており、 同じく感染症に関わるチー 具体的な抗菌薬の選択、 ムとして、 抗菌薬



ク・ガウンなどを職員が適切に使用できている

手洗い及び手指消毒が適切に行えているな

また、定期的に院内を巡回し、手袋・マス

スタッフからの報告・相談を受けたり、

能動的

まらないためにどうすればよいか、

る病原体も含まれます。そのような病原体が広 強かったり感染が広まる弊害が大きかったりす ルエンザウイルス、多剤耐性菌など、感染力が おり、その中には新型コロナウイルスやインフ

に病原体の発生状況をモニタリングしたりして

対策を行っています。

